

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

代 表 校 名 (連 携 校 名)	岡山大学 (島根大学、鳥取大学、香川大学) 計4大学
事 業 名	多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ「多地域共創型」医学教育拠点の構築
事 業 責 任 者	医学部長 豊岡 伸一
事 業 の 概 要	
<p>地域医療体制の見直しや医師・診療科偏在・地域構造の変化など、ポストコロナ時代に向けて医療ニーズと医師養成課程のより速やかな連携が不可欠である。本事業では「地域枠学生が多彩な地域ならではの医療課題を個別最適に学習・体験することで、卒後に地域医療への従事を強く志向し、地域が求める優れた医療を提供できる医師を広く養成する」を達成目標に掲げ、岡山大学を主幹に島根大学、香川大学と鳥取大学がそれぞれの豊かな個性と強みを掛け合わせ、地域枠学生に対する新たな「多地域共創型」医学教育モデルを構築・推進する。事業構想では、地域枠学生が多彩な地域医療現場での体験や教育プログラムを通してつながり、成長し、光り輝く、唯一無二の医療人教育拠点構築を強く意識した。多くの地域医療課題を共有する4大学が相乗的に連携協働することで、これからの地域医療が求める優れた先駆的医師を養成し、我が国の持続可能な医療の発展に貢献する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○4大学が各々の特色を活かしての医師養成は新たな試みとして評価できる。</p> <p>○各年次に各大学の特色を生かしたオリジナリティのある講義内容が設定されている。また、各プログラムとも具体的な目標設定があり、おかれる力点とともに、明確な方向性が示されている。</p> <p>○学生は普段とは異なる地域で、その地の課題に触れ、他大学の地域枠学生と触れ合い、多様なエキスパートから学び、自らの地域に課題を持ち帰って共有する試みも非常に優れている。</p> <p>○これまでの各大学の実績にもとづきそれを連携で強化する展開となっている。今後重要なテーマを強調したプログラムが多く、評価できる。</p> <p>○各大学に連携室を置くなど連携への目線が置かれている。また、事業成果の普及・発信について、 ①高校生対象に地域医療に興味をもってもらう説明会の実施②他研究機関への横展開 と、明確な目的が絞られている。</p> <p>○毎年、地域枠学生のためのオリエンテーションや高校生向けの地域枠説明会、カリキュラム委員相、外部評価委員会などPDCAサイクルを意識した計画で成果が期待できる。</p> <p>●申請書上、4年生以上の対象が多い点が気になった。</p> <p>●実効性を担保するためには、強いリーダーシップと、強固な評価体制により質のチェックや必要な場合の改善を行う評価体制が必要になる。提出された計画では、その部分の具体的な体制が分かりかた。</p> <p>●各大学の特色を生かしたオリジナリティのある講義を作ることに意義があるが、一方、その内容を他の大学の教員がそれぞれの体制で行う場合に、どのように質を担保しうるかについて、記載がなかった。</p> <p>●本事業で作成した教材を全国の研修医などへ有料化での拡充による運営資金獲得は、許容されるのか疑問である。</p>	